News 2011.08—2012.01

出版会活動

◆『美術と教育のあいだ』を八月十五日より発売

本書は、実技制作と理論研究とを二つの柱にした本学の美術教育研究室に所属する十五人の執筆者が、美術制作者、教育者、理論研究者というそれぞれの立場から、美術と教育の関係をあらためて見つめ直した初めての論文集。

「美術と教育のあいだ」をつなぐことで美術と教育それぞれについて根源的に考え、今日の社会における新たな美術教育の有効性を見出すことを目指したもの。

◆『ピアニスト小倉末子と東京音楽学校』を十月三十日より発売

大正と昭和戦前期の東京音楽学校教授・小倉末子は日本初の国際級のピアニストであった。小倉の東京音楽学校入学から百年目に書かれた本書は、小倉末子の掘り起こしをおこなってきた津上が小倉の足跡を追い、本学の学史研究に携わる橋本が東京音楽学校史から小倉を捉えることで、小倉像を複眼的に照射する。

本書の意義を明示する大角の序論、五名の研究者（塩津洋子、武石みどり、辻浩子、戸ノ下達也、藤本寛子）によるコラム、巻末附録に略年表と演奏活動一覧があり、洋楽史研究に欠かせない一冊となっている。

◆『高山登「枕木—白い闇×黒い闇の軌跡」』を十一月十五日より発売

二〇一一年三月十一日、われわれの存在自体を揺るがした震災と原発事故。一九六〇年代後半以降、日本の現代美術において常にその存在を顕し続ける美術家・高山登は、仙台・気仙沼に自宅とアトリエをもち、いま改めて「闇」について考える。

本書は、高山の「枕木—人柱」による重厚な作品世界、生きてきた時代と記憶、そして震災後を生きる姿勢を描きだす。活動初期からの枕木による作品群、貴重なパフォーマンスやドローイングなど一八〇点におよぶ図版を収録。

東京藝術大学出版会の出版物等は、本学藝大アートプラザ、アマゾン（ネット販売）および一般書店にて取り扱っております。詳しくは、藝大アートプラザ（〇五〇—五五二五—二一〇二）まで

交流

◆大学間国際交流協定締結

十二月二十九日、陝西師範大学音楽学院と本学音楽学部は、芸術（音楽）に関する交流を深めるとともに、教育および研究に関する協力をおこなうことに合意し、芸術国際交流協定を締結した。

この調印により、本学における交流協定締結校は、十七カ国（地域）、四十九大学などとなった。

運営

◆東京藝大教員有志へ文化庁長官から感謝状贈呈

八月二日、旧文部省庁舎における、東日本大震災被災文化財等救援・修復活動への援助者に対する感謝状贈呈式で、本学の教員有志を代表し、三田村有純教授（藝大アートプラザ所長）に文化庁長官から感謝状が手渡された。

東日本大震災を受け、本学で六月一日から七月十日までの間におこなった、名誉教授を含む教員有志の出品による「東京藝大教員有志による被災地復興支援・文化財救援　作品展」の開催と、それに伴う売上金の寄附を受けたもの。

◆東日本大震災被災文化財の救援と復旧のための募金

本学と台東区は、八月二日から二十一日までと九月九日から二十五日まで、本学の大学美術館で開催した、「今、美術の力で—被災地美術館所蔵作品から」、「区長賞創設三十周年記念 台東区コレクション展」ほかの展覧会において、被災文化財の救援と復旧のために募金箱を設置し、ご来場のお客様から、合計一一〇万六七四八円のご寄附をいただいた。

寄附金は、文化庁の文化財レスキュー事業を実施するための寄附金・義援金の窓口となっている公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団に寄附をおこなった（外国硬貨はユニセフ外国コイン募金に寄附）。

◆平成二十三年度「藝祭」

九月二日から四日まで、本学上野校地において、毎年恒例となっている藝術祭（藝祭）を開催した。

今年のテーマは「浮世るねさんす」。学生のアイディアで、三月十一日に発生した東日本大震災に対し、文化芸術をもって人々の元気を表現しようとの思いから、「浮世を再生する」という趣旨のテーマを掲げたもの。

台風の影響で一時開催が危ぶまれたが、初

受章・受賞

◆佐藤雅彦教授が「日本数学会賞出版賞」を受賞

三月十八日、大学院映像研究科メディア映像専攻の佐藤雅彦教授の著書『日常にひそむ数理曲線 DVD-Book』が、出版活動などの著作活動により、数学の研究・教育・普及に顕著な業績をあげた活動を顕彰することを目的とする日本数学会賞出版賞を受賞した。

受賞にあたり、「放物線や双曲線、クロソイド曲線などの数理曲線を、身近な日常生活の中に発見し、巧みな演出で映像化し、実に見やすい上に、数学的思考の普及に資するところ大である」と評された。

◆吉村誠司准教授が「第十七回 足立美術館賞」を受賞

美術学部絵画科（日本画）の吉村誠司准教授の作品「陽光」が、平成二十三年、第十七回足立美術館賞を受賞した。

この賞は、将来性ある日本画家の育成を目的とし、毎年九月に開催される院展の中から、優秀かつ同美術館にふさわしい作品を一点選考し、同時に買い上げをおこなっているもの。

◆薗部秀徳講師が神戸ビエンナーレ2011「グリーンアート」コンペティション「神戸ビエンナーレ大賞」を受賞

十月二十一日、大学院美術研究科工芸専攻（木工芸）の薗部秀徳講師の作品「配置された木」が、「グリーン（根付の生きた植物）」を用い、アーティストの自由な発想と方法で、アートの力と可能性を斬新に表現する「グリーンアート」コンペティションで、神戸ビエンナーレ大賞を受賞した。

「一つの樹種を素材にして生命存在の広がりを考えさせる秀逸な作品」として審査員一同から高く評価されたことによる受賞。

◆東京藝術大学カレンダー・2012（楽器編）が第六十三回全国カレンダー展において「日本商工会議所会頭賞」を受賞

十二月二十六日、本学として初めて応募した第六十三回全国カレンダー展において、「東京藝術大学カレンダー・2012（楽器編）」が、「日本商工会議所会頭賞」を受賞した。

「日本商工会議所会頭賞」は、応募のあった全作品の中から実用性に富み、総合的に優れている作品に与えられるもの。

第24号刊行にあたって

本号の表紙は大学院映像研究科教授の佐藤雅彦氏に飾っていただき、巻頭インタビューでは、氏の知性と独創性に満ちた発想がどこからくるのかを垣間見ることができます。

また、連載「卒業生に聞く。」は、日頃ほとんどメディアに登場しない美術学部先端芸術表現科卒業の人気漫画家、今日マチ子氏の在学時代を語っていただいた貴重な記事です。さらに、「研究室探訪」では、音楽学部邦楽科能楽専攻の関根知孝教授の研究室を訪ねており、日頃触れることのない凛然とした稽古の空気感が迫ってきます。

他のどの記事を見ても、他のどの媒体でもなし得ない東京藝術大学独自のコンテンツに満ちており、単純に読み物として興味をそそるものばかりです。ぜひお楽しみください。

藝大通信編集長
松下 計

展覧会・演奏会の最新情報は、東京藝術大学公式 Web サイト（http://www.geidai.ac.jp/）をご覧ください。

● 展覧会についてのお問い合わせ先
東京藝術大学大学美術館
Tel. 050-5525-2200
NTT ハローダイヤル
Tel. 03-5777-8600

● 演奏会についてのお問い合わせ先
東京藝術大学演奏藝術センター
Tel. 050-5525-2300

● 演奏会チケットの取り扱い
藝大アートプラザ
Tel. 050-5525-2102
ヴォートル・チケットセンター
Tel.03-5355-1280
チケットぴあ
Tel. 0570-02-9999
（一部携帯電話・PHS・IP 電話はご利用いただくことができません。）
東京文化会館チケットサービス
Tel. 03-5685-0650

● 藝大アートプラザのご案内
Tel. 050-5525-2102

日は、美術・音楽学部の一年生が暑い夏にも負けず制作に励んだ八基の神輿が、サンバ隊に導かれながら上野公園内を練り歩き、多くの人々の注目を浴びた。そのほか、大学構内でのさまざまな展示や演奏会、模擬店など、学生の熱い思いが感じられる三日間であった。

◆藝大アーツ イン 東京丸の内

十月二十五日から三十日まで、本学と三菱地所株式会社が共同主催する「藝大アーツ イン 東京丸の内」が、丸ビル（東京都千代田区丸の内）において開催された。

同イベントは、本学の若さ溢れる逸材により、丸の内からさまざまな文化・芸術を発信するもので、五年目の今回も、六日間の開催で、二万七五〇〇人を超える来場者を迎え、大盛況であった。

初日の目玉は、宮田亮平学長と長谷川閑史経済同友会代表幹事のスペシャル対談。二日目以降も、オリジナルオペラ公演「カルメンとロートレック」や大学院映像研究科アニメーション専攻による、「藝大アニメーション・音・ステージ2011」を開催するなど、連日多彩なプログラムを展開した。

◆藝大アート・スペシャル 2011
「学長と語ろうX　奏楽堂トーク&コンサート」「障がいとあーと」

十一月十九日、二十日の両日、本学奏楽堂で、藝大アート・スペシャル2011を開催した。今回は、「学長と語ろう　トーク&コンサート」が十回目の節目にあたることから、映画監督の山田洋次氏をゲストに迎えた「学長と語ろう　トーク&コンサート」と、「障がいとあーと」の公演を二日連続でおこない、前者には約八〇〇名、後者には約七〇〇名の来場者があった。

一日目の「学長と語ろう　トーク&コンサート」第一部では、「藝術のもたらすもの」というテーマで、山田監督の『男はつらいよ』シリーズなどの映像がスクリーンに映しだされるなか、映画監督の視点による芸術のとらえ方などが山田監督の口から語られ、貴重な対談となった。第二部では、本学音楽学部の山本正治教授の指揮による東京藝大ウインドオーケストラが映画音楽を演奏し、《男はつらいよ》主題歌では、同じく音楽学部の多田羅迪夫教授の豊かな歌声が奏楽堂にこだまし、山田監督はもとより、来場者の心を寅さんの世界へと誘った。

二日目の「障がいとあーと」公演では、美術・音楽学部の学生が筑波大学附属大塚特別支援学校の生徒たちとおこなった半年にわたる交流の成果を「障がいとあーと展」として展示。また、ダウン症を患いながらも絵を描くことに目覚めた中国の天才画家、羅錚の作品《海》も展示され、見る者の心を和ませた。

プレコンサートでは、ヴァイオリンなどを手にした筑波大学附属大塚特別支援学校の生徒たちが、音楽学部の学生による箏などの伴奏と息のあった演奏を披露。そして本番のコンサートでは、シルヴァン・カンブルランの指揮による藝大フィルハーモニアが、羅錚が《海》という油絵を描くきっかけとなったドビュッシーの《海》などの演奏をおこない、一般の観客と広く招かれた障がい者とが、同じ空間と空気を共有し、心温まる気持ちで演奏会を楽しんだ。

◆宮田亮平学長が平成二十三年度荒川区特別功労者として表彰

十一月二十五日、宮田亮平学長が、多年にわたり荒川区の発展のために力を尽くした方を対象とする荒川区特別功労者として表彰された。

本学の学長として、荒川区との連携を積極的に進め、区民が芸術を身近に感じられる環境整備に尽力するとともに、荒川区芸術文化振興プランの策定など、区の芸術文化事業の推進に大きく貢献し、区の発展に顕著な功労があったことが表彰の理由。

◆藝大フレンズ加入者状況

加入者数（平成二十四年一月三十一日現在）
賛助フレンズ 個人二二九名　法人四団体
特別賛助フレンズ 個人九名

◆今年度下半期に開催された主な展覧会、演奏会記録

《大学美術館》

今、美術の力で
―被災地美術館所蔵作品から―
会期　八月二日～八月二十一日
入場者数　七〇三四名

国宝　源氏物語絵巻に挑む
―東京藝術大学　現状模写―
会期　九月九日～九月二十五日
入場者数　一万三一五六名

区長賞創設三十周年記念
台東区コレクション展
会期　九月九日～九月二十五日
入場者数　九四一八名

彫刻の時間―継承と展開
会期　十月七日～十一月六日
入場者数　七八三四名

《奏楽堂》

オペラ定期　第五十七回
「コジ・ファン・トゥッテ」
開催日　十月一日、二日
入場者数　八〇九名、八〇八名

藝大フィルハーモニア・合唱定期
第三四九回
開催日　十一月十八日
入場者数　八八一名

吹奏楽定期　第七十七回
開催日　十一月二十三日
入場者数　八八四名

邦楽定期　第七十八回
開催日　十一月三十日
入場者数　九六〇名